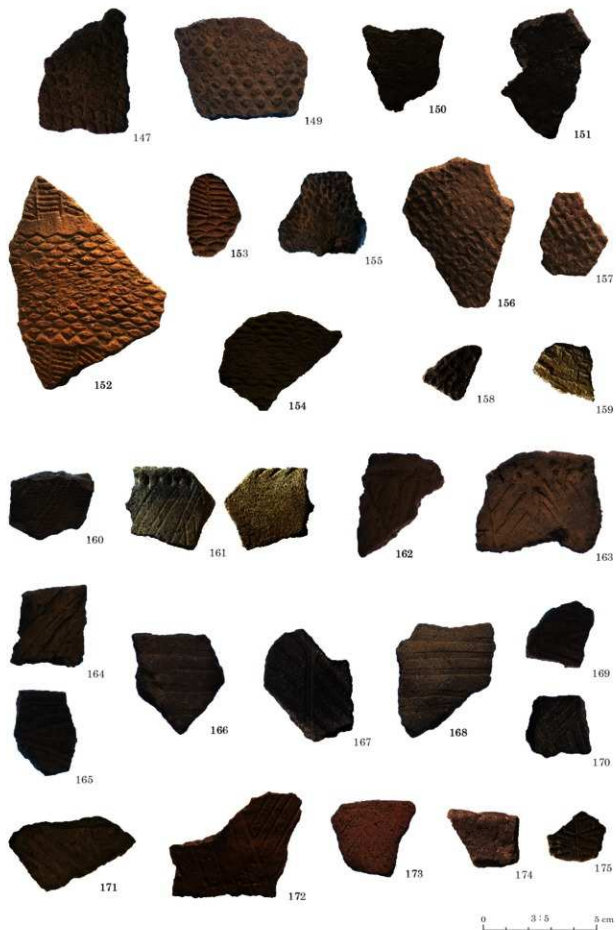


前庭部緩斜面出土 縄文土器 (1)

図版 18

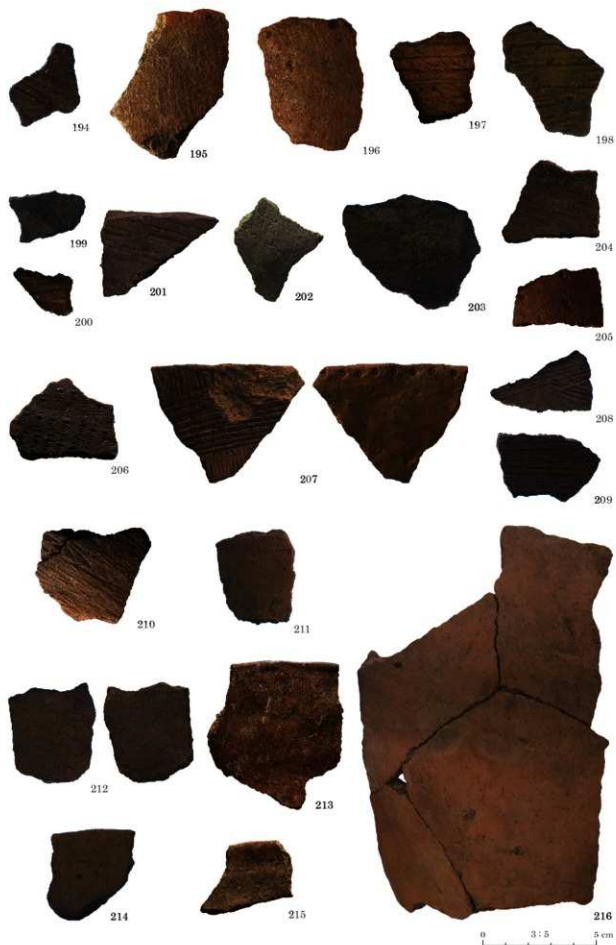


前庭部緩斜面出土 縄文土器 (2)



0 3:5 5cm

図版 20

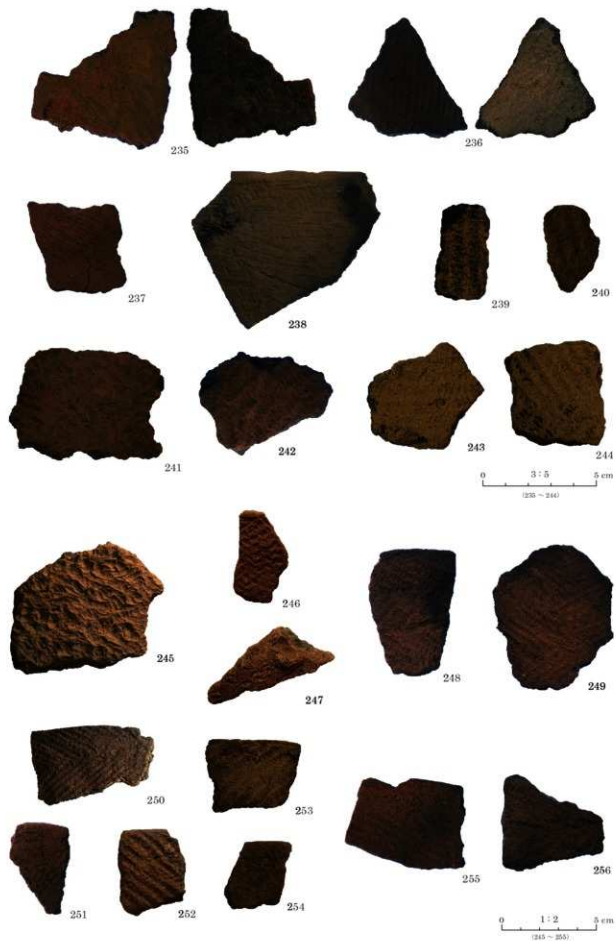


前庭部緩斜面出土 縄文土器 (4)

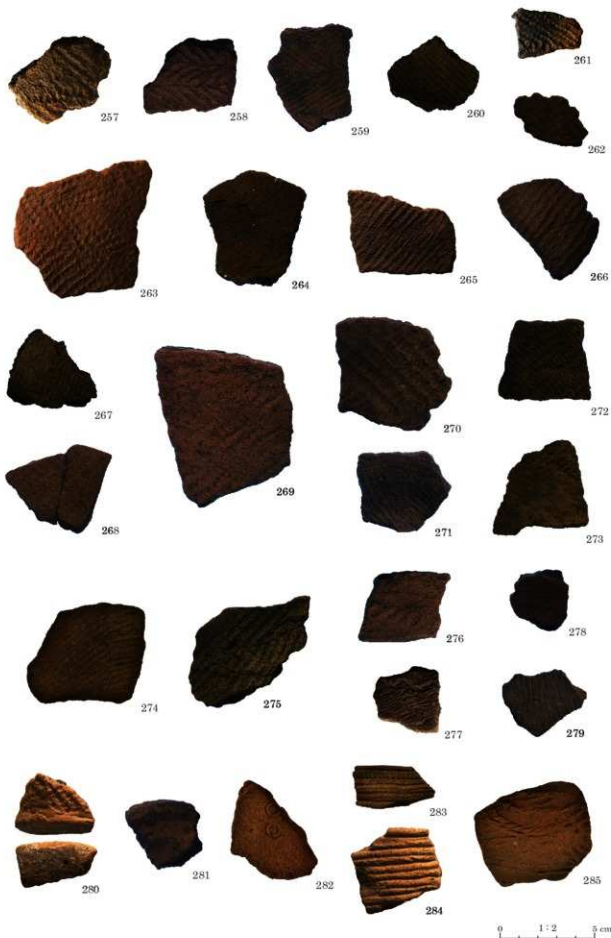


前底部緩斜面出土 縄文土器 (5)

図版 22



前底部縦斜面出土 縄文土器 (6)



前庭部縦斜面出土 縄文土器 (7)

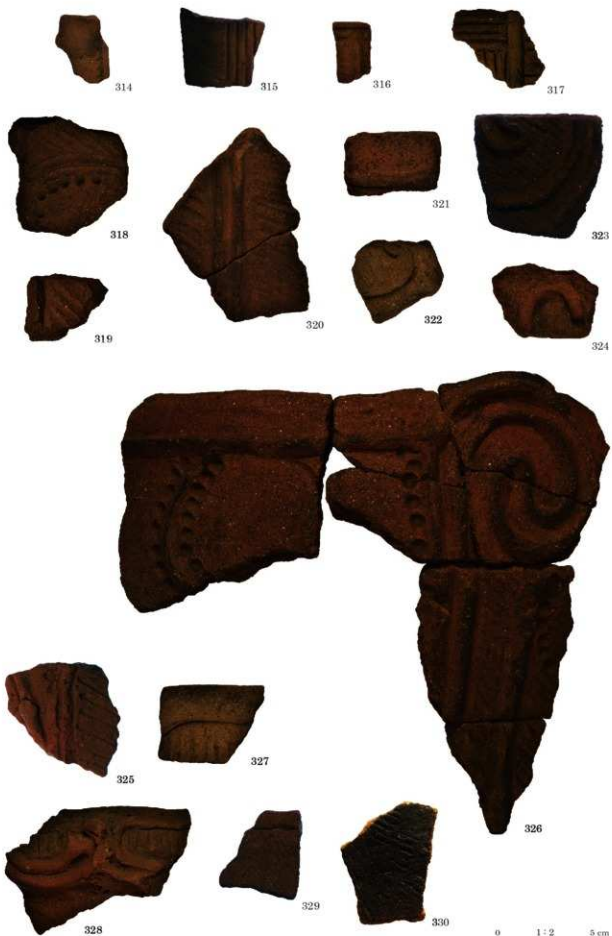
図版 24



前庭部縦斜面出土 縄文土器 (8)

0 1:2 5 cm





前底部緩斜面出土 縄文土器 (9)

图版 26



前庭部緩斜面出土 縄文土器 (10)



前底部緩斜面出土 縄文土器(11)

図版 28

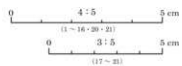


前庭部緩斜面出土 弥生土器

0 1:2 5 cm



表面採集 縄文土器



図版 30



岩陰部出土 石器(2)



前庭部縦斜面出土 石器(1)



前庭部緩斜面出土 石器 (2)

図版 32



前底部緩斜面出土 石器 (3)



表面採集 石器





岩陰部・前庭部緩斜面出土 骨角器・貝製品



岩陰部・前庭部緩斜面出土 魚類・貝類



岩陰部出土 動物遺存体

図版 34



前庭部縦斜面出土 動物遺存体 (1)





調査前現場清掃 (第2次調査)



現場ミーティング (第2次調査)



岩陰部の調査 (第3次調査)



岩陰部の調査 (第3次調査)



前庭部緩斜面の調査 (第2次調査)



前庭部緩斜面の調査 (第3次調査)



現地説明会 (第3次調査)



大学での整理作業 (第2次調査)



岩陰部 1 号人骨の調査 (第 3 次調査 國學院大學特別推進研究)



第 2 次調査 調査参加者



第 3 次調査 調査参加者

## 報告書抄録

ふりがな	いよいよわけいせき2						
書名	居家以岩陰遺跡Ⅱ						
副書名	第2次・第3次発掘調査報告書						
シリーズ名	國學院大學文学部考古学実習報告						
シリーズ番号	第56集						
編者名	(編集) 谷口康浩 (著者) 谷口康浩・伊沢加奈子・石澤菜衣子・猪熊花那子・鈴木明香・多賀谷 蓮・茅原明日香・本間泰輔・松本耕作・南館 輝・中島将太・伊藤 茂・安 昭彦・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・小林 敏一・Zaur Lomtadze・黒沼保子・佐々木由香・パンダリ スタルシャン・竹原弘展・森将志・中村賢太郎・藤根 久・野口真利江						
編集機関	國學院大學文学部考古学研究室						
所在地	〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28 TEL(FAX):03(5466)0248						
発行年月日	令和2(2020)年 2月29日						
遺跡所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
	区市町村	遺跡番号					
群馬県 吾妻郡長野原町 大字長野原875	10424	80	36° 33′ 28″	138° 38′ 51″	【第2次】 20150813～0824 【第3次】 20160802～0813 20160905～0917	38㎡	学術調査
種別	時代	遺構		主な遺物			
岩陰遺跡	[主体的時期]			縄文土器 草創期(陸奥縄文系・多縄文系) 早期(表裏縄文・矢底回転縄文・標系文・押型文・沈線文・無文・ 条痕文・楕状体圧痕文) 前期(羽状縄文・諸磯a式・諸磯b式・諸磯c式・十三番段式) 中期(五箇ヶ台式・新崎式・勝坂式・河玉台式・焼町土器・郡土式 ・加曾利E式) 後期(堀之内1式・堀之内2式) 晩期(佐野式・浮輪細文系・千瀬式・大洞A式)			
	縄文時代早期 縄文時代前期	集石 1基 列石 1基					
	[遺跡形成時期]	焼土ブロック 3基 灰ブロック 4基		石器 (石鏃・スクレイパー・石匙・石錐・異形石器・楔形石器・打製石斧・ 両面調整尖頭器・二次加工刮片・石核・磨石・特殊磨石・敲石・複合種 石器・石鏃・台石・凹石・砥石・棒石製品)			
	縄文時代草創期 ～歴史時代	埋葬人骨 6個体		骨角器・貝製品(刺突具・糸巻品)  動物遺存体(ニホンジカ・イノシシ・中小型哺乳類・貝類・魚類・ 両生類・爬虫類・鳥類)			
遺跡の概要	上信越山地の南側にあたる山間地。利根川水系吾妻川流域に位置する岩陰遺跡。縄文時代から弥生時代にわたる多時期の遺物包含層が累積する中でも、縄文時代早期の遺物出土量が特に多く、早期中葉の押型文・沈線文期および早期後葉の条痕文期に活発な利用痕跡がみられる。前期の出土量も比較的多い。岩陰部で発掘された縄文時代早期後葉(条痕文期)の1号人骨(成人女性)は保存状態のよいほぼ完全な人骨で、早期縄文人の貴重な人骨標本となる。その周囲からも4個体の人骨が出土し、岩陰内が集約的な埋葬地となっていた状況が窺える。また、岩陰前面の緩斜面では、早期に形成された人為的な灰質土層中に動物骨・植物種子などが豊富に保存されていることが確認された。						
文化財保護・教育普及・学術研究を目的とする場合、この報告書の一部を複製して利用することができます。利用にあたっては出典を明記して下さい。							

---

國學院大學文学部考古学実習報告 第56集

## 居家以岩陰遺跡Ⅱ

第2次・第3次発掘調査報告書

令和2(2020)年2月29日 発行

編集 谷口康浩

発行 國學院大學文学部考古学研究室

〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28

電話 03-5466-0248

印刷 能登印刷株式会社

---